

1. 被災地における子どものメンタルヘルスに関する研修事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

フィリピン共和国は、地震、台風などの自然災害の被災が度々あり、被災者のメンタルヘルス、特に被災した子どもたちのメンタルヘルスは重要な課題である。

【活動内容】

NCGM 国府台病院は震災直後より宮城県石巻市において、被災した子どもたちのメンタルヘルスに取り組んでいる。同院と連携機関がフィリピン大学との間で、研修会と石巻市での視察を通して地域支援ネットワークモデルの研修を行う。また、フィリピンに専門家を派遣し、現地視察と専門家との討論を行う。また、琉球大学震災支援研究者も合わせて、関係者で意見交換会を開催する。

【期待される成果や波及効果等】

被災地における子どものメンタルヘルスに関する支援方法について現地支援者に研修を行うことにより、現地の状況に即した地域支援ネットワークが構築されることが期待される。

<研修実施結果>

6月4日-10日 研修生受入（10名）

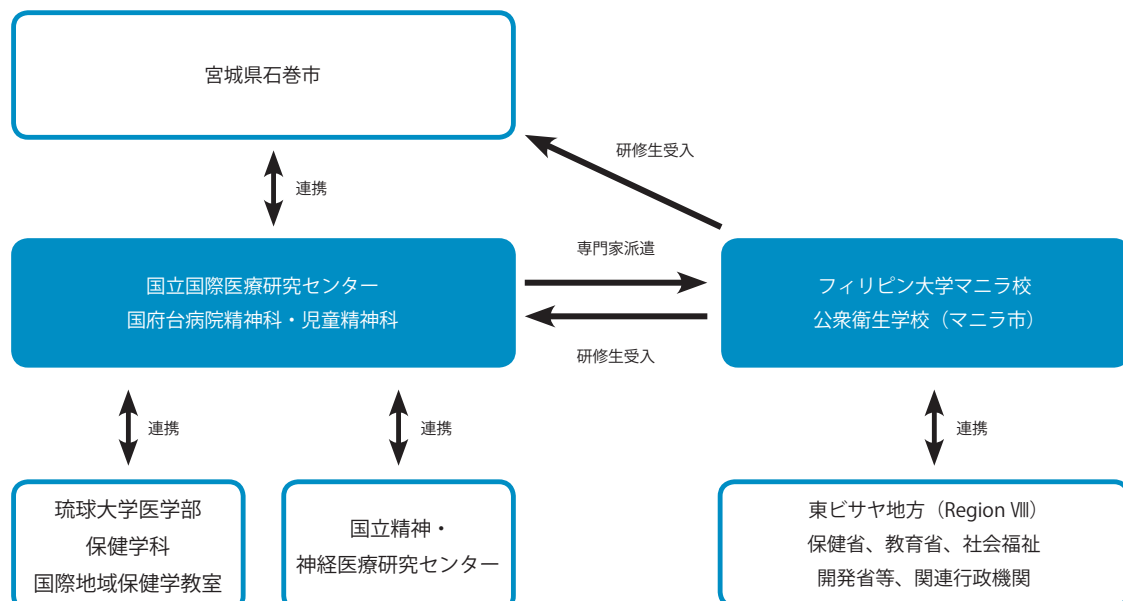
- ・国府台病院において、こどものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルと支援方法等について研修会を開催
- ・宮城県石巻市の地域支援ネットワークモデル視察、研修会開催

10月22日-28日 専門家派遣（8名）

- ・被災地における子どものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルについて現地視察及びディスカッション

12月3日-5日 意見交換会（14名）

- ・日本における地域支援ネットワークモデルの移転・導入に関する意見交換



背景1

- 日本における災害メンタルヘルスについては、2011年3月の東日本大震災以降数多くの取り組みが実践されてきた。
- NCGM国府台病院でも、震災直後より宮城県石巻市にメンタルヘルスに関する支援に入り、現在も被災した子どもたちのメンタルヘルスに取り組んでいる。
- この間主に学校保健や保健行政に対する直接支援を通して、現地で子どものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルを構築した。

被災地における子どものメンタルヘルスに関する研修事業についてご報告いたします。まず、本事業の背景について説明いたします。日本における災害メンタルヘルスについては、2011年3月の東日本大震災以降、数多くの取り組みが実践されてきました。国府台病院でも震災直後より宮城県石巻市にメンタルヘルスに関する支援に入り、現在も被災した子どもたちのメンタルヘルスに取り組んでいます。この間、主に学校保健や保健行政に対する直接支援を通して、現地で子どものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルを構築しました。

背景2

- メンタルヘルスに関する国際支援は近年非常に注目されており、災害支援におけるメンタルヘルスの重要性もこれらに含まれ支援が求められていると考えられる。
- 本研修事業で対象国に選んだフィリピン共和国は、地震、台風などの自然災害の被災が度々あり、被災者のメンタルヘルス、特に被災した子どもたちのメンタルヘルスは重要な課題である。

一方メンタルヘルスに関する国際支援は、近年非常に注目されており、災害支援におけるメンタルヘルスについても支援が求められていると考えられています。本事業で対象国に選んだフィリピン共和国は、地震、台風などの自然災害が度々あり、被災者のメンタルヘルス、特に被災した子どもたちのメンタルヘルスは重要な課題となっています。このような背景から、私たちはフィリピン共和国を対象として本事業を実施することにしました。

期待される成果

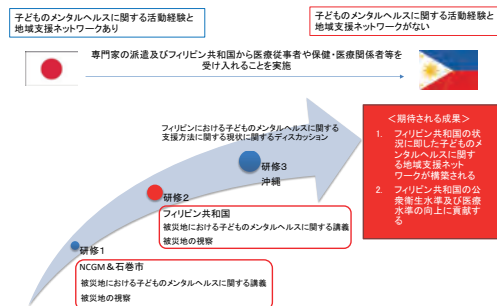
被災地における子どものメンタルヘルスに関する研修事業

被災地における子どものメンタルヘルスに関する支援方法について
現地支援者に研修を行うこと

<期待される成果>

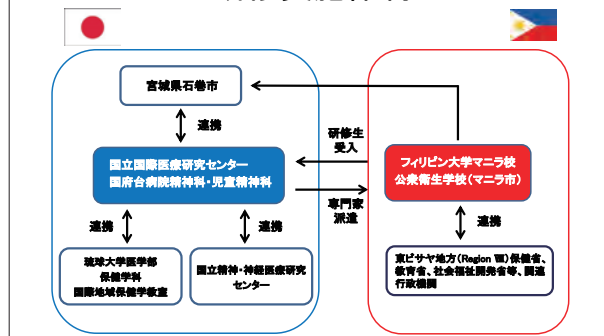
フィリピンにて現地の状況に即した地域支援ネットワークが構築される

期待される成果



期待される成果は、スライドに記載の通りです。被災地における子どものメンタルヘルスに関する支援方法について現地の支援者に研修を行うことによって、フィリピンにて現地の状況に即した地域支援ネットワークが構築されることです。

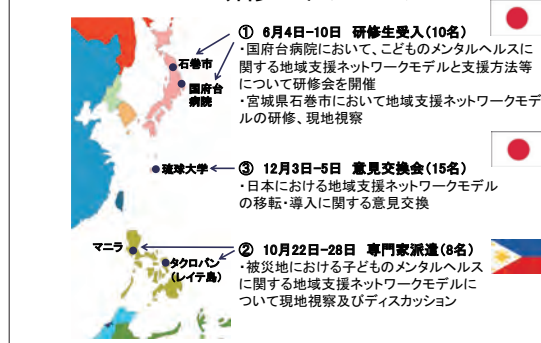
研修実施体制



研修実施体制ですが、日本側で連携したのが3カ所です。1つは国立精神・神経医療研究センターで、災害精神医療の専門家に協力していただきました。もう1つは、琉球大学医学部保健学科の国際地域保健学教室です。こちらはフィリピン大学マニラ校と提携して被災地の研究を実施しているところです。もう1つは、国府台病院が支援を行っている石巻市に協力をお願いしました。

フィリピン側では、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学校が中心となり、Region VIIIと呼ばれている東ビサヤ地方の保健省、教育省、社会福祉開発省等の関連行政機関が研修に参加しました。

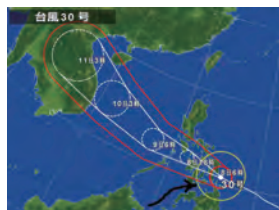
<研修スケジュール>



研修スケジュールですが、第1ラウンドとして6月にフィリピンから10名の研修生を招いて国府台病院と石巻市で実施しました。国府台病院において、子どものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルと支援方法等についての研修会を開催

し、石巻市において地域支援ネットワークモデルの研修と現地視察を行いました。第2ラウンドは、10月に日本から8名の専門家を派遣し、フィリピンのマニラおよびレイテ島のタクロバン周辺で行いました。被災地における子どものメンタルヘルスに関する地域支援ネットワークモデルについて現地視察及びディスカッションを実施しました。第3ラウンドは、フィリピンから5名の研修生を招いて、日本の専門家と合わせて計15名の参加者で琉球大学において実施しました。日本における地域支援ネットワークモデルの移転・導入に関する意見交換を行いました。

台風30号(国際名: Haiyan, フィリピン名: Yolanda)



2013年11月8日午前、フィリピン中部に上陸、暴風・高潮災害が発生。さらに湾の最奥部に位置する地形的要因や避難がしにくい早朝時という時間的要因などの理由によってレイテ島を中心に甚大な被害を引き起こした。

死者6,201人(東ビサヤ地方5,803人)、
行方不明者1,785人(同1,729人)、
避難約410万人、被災者約1,608万人

フィリピンにおける研修場所にレイテ島のタクロバン周辺を選んだ理由ですが、レイテ島のある東ビサヤ地方は2013年11月の台風30号による暴風と高潮災害によって甚大な被害を受けた地域であり、死者6,000人以上で東ビサヤ地方が最も被害を受けたということによります。

フィリピンの行政区画



フィリピンの行政区画は、1:首都圏、1:自治区、14:地方(Region)に分けられる。1991年内務自治省法により大きな自治権が地方政府に付与され、公共事業、健康管理システム、教育、社会福祉制度といった諸機能の大部分が地方自治体の管轄下に移された。

フィリピンの行政区画について説明しておきます。フィリピンの行政区画は、1つの首都圏、1つの自治区、14の地方(Region)に分けられています。1991年の内務自治省法により大きな自治権が地方政府に付与され、公共事業、健康管理システム、教育、社会福祉制度といった諸機能の大部分が地方自治体の管轄下に移されました。台風30号の甚大な被害を受けた東ビサヤ地方は、Region VIIIという行政区画であり、その中心都市がタクロバンということになります。

研修① 国府台病院・石巻市 6月4日-10日

【研修生(10名)リスト】

No.	氏名	所属
1	Prof. Ernesto R. Gregorio, Jr. 研究者(公衆衛生)	Assistant Professor, University of the Philippines Manila-College of Public Health(UP-CPH), Department of Health Promotion and Education
2	Dr. Ronald del Castillo 心理士(公衆衛生)	Assistant Professor, UP-CPH, Department of Health Policy and Administration
3	Mr. Jorel A. Manalo 研究者(公衆衛生)	University Researcher, UP-CPH, Department of Health Policy and Administration
4	Dr. Cynthia Leynes 児童精神科医師	Professor, University of the Philippines Manila, College of Medicine, Department of Psychiatry & Behavioral Medicine
5	Dr. Tomas Bautista 精神科医師	Associate Professor, University of the Philippines Manila, College of Medicine, Department of Psychiatry & Behavioral Medicine
6	Dr. Norietta Balderrama 児童精神科医師	UP-Philippine General Hospital
7	Mr. Emmanuel P. Firmo, Jr. 防災コーディネーター	DRRM Coordinator, Department of Education Region 8, Tacloban City
8	Dr. Fidelita Dico 医官	Medical Officer, Department of Health Region Office 8, Regional director/ Assistant Regional director, Tacloban City
9	Ms. Winnie C. Dorego 看護師	Nurse, Department of Health Region Office 8, Local Health division, -Non Communicable disease Unit, Tacloban City
10	Prof. Querima Deborah Q. Jopson 研究者	University of the Philippines Visayas, Tacloban College

第1ラウンドは国府台病院と石巻市で研修を実施しました。スライドにフィリピンから招いた10名の研修生が記載されておりますが、1～6番までの6名はフィリピン大学マニラ校から参加していて、公衆衛生の専門家、精神科医師及び児童精神科医師です。7～10番の4名は東ビサヤ地方(Region VIII)の保健省、教育省及び大学に勤務している職員であり、被災地の現場で活動している方達です。研修受け入れ側の体制としては、NCGM 内部スタッフとして、国府台病院精神科、児童精神科、及びソーシャルワーク室、NCGM 外部の講師・ファシリテーターとして、国立精神・神経医療研究センター(NCNP)病院精神科佐竹直子医師、同センター精神保健研究所成人精神保健研究部災害等支援研究室鈴木友理子室長、琉球大学医学部保健学科国際地域保健学教室小林潤教授、児玉光也特命助教、及び Lomboy Marian Fe Theresa Costes 特命助教が担当しました。

研修① 講義(国府台病院)

1. 東日本大震災の経験 (児玉光也, 琉球大学医学部保健学科国際地域保健学教室)
2. 震災後のメンタルヘルスケア (鈴木友理子, NCNP精神保健研究所成人保健部)
3. 石巻市の被災状況 (佐竹直子, NCNP病院精神科)
4. 国府台病院による石巻市におけるメンタルヘルスケア (山本啓太, 国府台病院ソーシャルワーク室)
5. 精神障害の子どものための災害ガイドブック日本版 (牛島洋彰, 国府台病院児童精神科)
6. フィリピンの学校における災害対策 (Prof. Ernesto R. Gregorio, Jr., UP Manila, CPH)
7. タクロバンの災害対策の経験 (Dr. Fidelita Dico, Department of Health Region 8)
8. フィリピンにおける災害メンタルヘルス対策 (Dr. Cynthia Leynes, UP Manila PGH)
9. 日本の児童精神医療の現状 (宇佐美政英, 国府台病院児童精神科)
10. 石巻市の子どものメンタルヘルスにおける国府台病院児童精神科の支援活動とフォローアップスタディ (宇佐美政英, 国府台病院児童精神科)
11. 石巻市における子ども支援会議 (稲崎久美, 国府台病院児童精神科)
12. 石巻市健康部及び福祉部に対する支援 (佐竹直子, NCNP病院精神科)

国府台病院では12の講義を行いました。東日本大震災の状況と
その後のメンタルヘルスに関すること、及び国府台病院が石巻市
に行っている支援について説明しました。特に石巻市における子
どもの支援会議、石巻市健康部及び福祉部に対する支援に関して
は、地域ネットワーク形成に大きく関わっている内容の講義です。

研修① 講義(石巻市)

1. 東日本大震災に係る児童生徒の心のケア事業
(久保田健一, 葛原裕子, 石巻市学校教育課指導グループ指
導主事)
2. 被災地における保健活動と子どものメンタルヘルス
(杏沢はつ子, 石巻市健康部次長兼福祉部参事)
3. 被災地における子育て支援について
(阿部敏恵, 石巻市福祉部子育て支援課)
4. 児童虐待対応の現状
(橋本泰仁, 石巻市福祉部市民相談センター虐待防止センター
所長補佐)
5. 応急仮設住宅の現状
(佐藤靖記, 石巻市福祉部生活再建支援課課長補佐)
6. みやぎ心のケアセンター石巻地域センターの活動
(桑島由美, みやぎ心のケアセンター石巻地域センター)

石巻市では子どものメンタルヘルスについてネットワークを
作っている、学校教育課、健康推進課、子育て支援課、虐待防止
センター、生活再建支援課及びみやぎ心のケアセンター石巻地域
センターから実際の活動の報告が行われました。

研修① 現地視察(石巻市)



石巻市では現地視察を行いました。からころステーションは、
現地でメンタルヘルス支援を行っている NGO の事業所です。石
巻市立渡波中学校は、5年半に渡って仮設校舎での学校生活を余
儀なくされていましたが、平成29年4月に新校舎が完成しまし
た。校舎は、地域住民の交流の場や災害時に避難できる機能も備
えています。

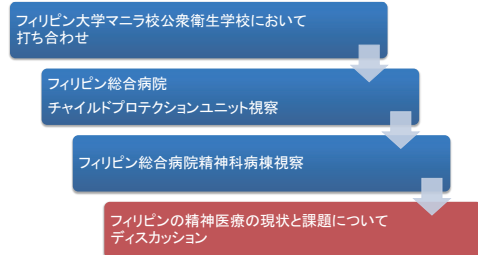
研修② フィリピン共和国 マニラ・タクロバン周辺 10月22日-28日

【専門家派遣(8名)リスト】

No.	氏名	所属	職種
1	早川達郎	NCGM国府台病院	精神科医師
2	宇佐美政英	NCGM国府台病院	児童精神科医師
3	稲崎久美	NCGM国府台病院	児童精神科医師
4	原田都大	NCGM国府台病院	ソーシャルワーカー
5	佐竹直子	国立精神・神経医療研究セン ター	精神科医師
6	鈴木友理子	国立精神・神経医療研究セン ター	精神科医師・研究者
7	児玉光也	琉球大学医学部保健学科 国際地域保健学教室	研究者
8	Maria Fe Theresa Lombay	琉球大学医学部保健学科 国際地域保健学教室	研究者

第2ラウンドは日本から8名の専門家をフィリピンに派遣し、
マニラとタクロバン周辺で研修を行いました。スライドは派遣さ
れた専門家のリストです。

研修② フィリピン共和国 マニラ 10月23日・27日



マニラでは、研修の打ち合わせとチャイルド・プロテクション・
ユニット、精神科病棟の視察を行いました。

研修② フィリピン共和国 タクロバン周辺 10月24日-26日



研修会開催 フィリピンから13機関、23名が参加

【フィリピン側参加機関リスト】

1. フィリピン大学マニラ校公衆衛生校
2. 保健省中央政府
3. 保健省Region8
4. 教育省Region8
5. 社会福祉・開発省Region8
6. フィリピン大学ビザヤス・タクロバン校
7. フィリピン大学ヘルスサイエンスセンター・レイテ
8. 教育省レイテ事務所
9. 教育省バンガシナン事務所
10. 教育省マニラ事務所
11. 教育省ナボタス事務所
12. セーブ・ザ・チルドレン
13. プラン・インターナショナル

マニラからタクロバンに移動し、研修会を開催しました。フィ
リピンから13機関23名が参加しました。参加機関は、フィリ
ピン大学マニラ校、中央政府、東ビザヤ地方 (Region VIII) の行
政機関及び大学、ルソン島の教育省、NGO 機関などです。

研修② プレゼンテーション

1. 本研修事業の背景とタクロバンにおける活動計画について (佐竹直子, NCNP病院精神科)
2. フィリピンにおける災害時のメンタルヘルスプログラムについて (Dr. Maridith Afuang, 保健省中央政府)
3. mhGAP(mental health gap action programme)について (Ms. Winnie Dorego, 保健省Region 8)
4. 社会福祉開発省の災害時メンタルヘルス活動について (Ms. Yvonne Abonales, 社会福祉開発省Region 8)
5. セーブ・ザ・チルドレンの災害時メンタルヘルス活動について (Ms. Julie Anne Culibar, セーブ・ザ・チルドレン)
6. ブラン・インターナショナルの災害時メンタルヘルス活動について (Ms. Sandra Saavedra, ブラン・インターナショナル)

保健省中央政府、Region VIII の保健省及び社会福祉開発省、セーブ・ザ・チルドレン、ブラン・インターナショナルからプレゼンテーションがありました。

研修② 現地視察1

台風ヨランダを生き残った人々の経験から学ぶ機会を得た。

Tanauan II Central School



San Jose National Highschool



the office of the Mayor of Tanauan



現地視察ですが、小学校、高校など台風 30 号を生き残った人々の経験から学ぶ機会を得ました。

研修② 現地視察2

the permanent relocation site in Tanauan



the Office of Civil Defense of Region 8 Eastern Visayas



the Eastern Visayas Regional Medical Center



- ・被災した人々の移転先の住宅を視察、地域のソーシャルワーカーから説明を受けた。
- ・市民防衛局Region 8(災害リスク軽減・管理の中心的組織)の活動について説明を受けた。
- ・東ビサヤ地域医療センターでは、チャイルド・プロテクション・ユニットの活動について説明を受けた。

被災した人々の移転先の住宅を視察し、地域のソーシャルワーカーから説明を受けました。Region VIII の市民防衛局は、災害リスク軽減・管理の中心的組織となっておりますので、活動について説明を受けました。東ビサヤ地域医療センターでは、チャイルド・プロテクション・ユニットの活動について説明を受けています。

研修③ 沖縄・琉球大学 12月3日-5日

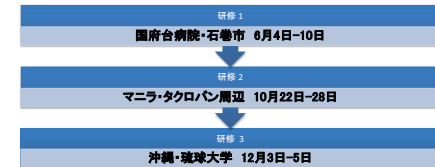
【研修生(5名)リスト】

1. Romeo R. Quizon
フィリピン大学マニラ校公衆衛生校学部長
2. Ernesto R. Gregorio, Jr.
フィリピン大学マニラ校公衆衛生校准教授
3. Cynthia Leynes
フィリピン大学マニラ校医学校精神医学教授
4. Minerva P. Molon
東ビサヤ地方 (Region VIII) 保健省局長
5. Ramir B. Uytico
東ビサヤ地方 (Region VIII) 教育省局長

日本から、国府台病院4名、国立精神・神経医療研究センター2名、琉球大学医学部保健学科国際地域保健学教室3名の専門家が参加。本研修事業を総括し、被災地の子どもたちのメンタルヘルスに関するフィリピン及び日本双方の課題と今後の方向性・計画について検討を行った。

第3ラウンドは、琉球大学において、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学校の学部長、准教授、医学校の精神医学教授、東ビサヤ地方 (Region VIII) の保健省局長、同じく教育省局長の5名を招いて、本事業を総括し、被災地の子どもたちのメンタルヘルスに関するフィリピン及び日本双方の課題と今後の方向性・計画について検討を行いました。NCGM 外部の講師・ファシリテーターとして、琉球大学医学部保健学科国際地域保健学教室小林潤教授、児玉光也特命助教、Lombay Marian Fe Theresa Costes 特命助教、国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 病院精神科佐竹直子医師、及び同センター精神保健研究所成人精神保健研究部災害等支援研究室鈴木友理子室長が参加しました。

本研修事業で重要と考えられた主要なテーマ



1. 災害リスク軽減・管理の実施について
2. コミュニティに根差したメンタルヘルス活動とネットワーク形成
3. 子どもたちに対するコミュニティに根差したメンタルヘルスケア
4. メンタルヘルスケア従事者に対するケアシステム
5. 学校及びコミュニティにおける災害に対する心理社会的な準備について

本事業で重要と考えられた主要なテーマとして、「災害リスク軽減・管理の実施について」、「コミュニティに根差したメンタルヘルス活動とネットワーク形成」、「子どもたちに対するコミュニティに根差したメンタルヘルスケア」、「メンタルヘルスケア従事者に対するケアシステム」、「学校及びコミュニティにおける災害に対する心理社会的な準備について」が挙げられました。

研修事業の成果

活動	プロセス指標・アウトプット指標	アウトカム指標
		・本事業を通じて現地で計画された取り組みの数、及び内容が変更された取り組みの数 ・フィリピン国内で子どもの災害後のメンタルヘルスに関する研修事業を開催するための資料作成(講義内容など)
研修① 国府台病院・石巻市 6月4日-10日	(達成度) 研修受講者数 10名	(達成度) 講義資料数 18
研修② フィリピン共和国 マニラ・タクロバン周辺 10月22日-28日	(達成度) 研修参加機関 13ヶ所 研修受講者数 23名	(達成度) 1) 講義資料数 6 2) 被災地の子どものメンタルヘルスに関わる多部門間のネットワーク形成についての合意
研修③ 沖縄・琉球大学 12月3日-5日	(達成度) 研修受講者数 5名	(達成度) 1) 東ビサヤ地方において、メンタルヘルスに関する各機関のネットワークはほとんどなかったが、本研修を通してネットワークが形成されたこと、及び今後それを維持していくことが確認された。 2) 本研修がきっかけとなり、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学校、東ビサヤ地方(Region VIII)保健省、及び同教育省が中心となって、2018年10月にタクロバン市において、メンタルヘルス・カンファレンス/フォーラムを開催することになった。 3) 2017年12月12日フィリピン保健省地方局長会議にて、今回の研修概要について講師招聘があり、その会議にて被災地における子どものメンタルヘルスについて保健省としてどう取り組むかの議論がなされた。 4) フィリピン側と日本側からフィールドレポートを雑誌に投稿。

1. Lomboy M. et al. : Highlights of the training for children's mental health in disaster-affected areas in the Philippines on October, 2017 – learning from the experiences of communities and organizations in Leyte, Philippines. 投稿中
2. Usami M. et al. : Addressing challenges in children's mental health in disaster-affected areas in Japan and the Philippines – highlights of the training Program by the National Center for Global Health and Medicine in Japan. 投稿中

本研修事業の成果です。指標のアウトカムとしては、1 番目に東ビサヤ地方において、メンタルヘルスに関する各機関のネットワークがほとんどなかったが、本研修を通してネットワークが形成されたこと、今後これを維持して行くことが確認されたことが挙げられます。2 番目としては、本研修がきっかけとなり、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学校、東ビサヤ地方保健省及び同教育省が中心となって、タクロバン市においてメンタルヘルス・カンファレンス/フォーラムを開催することになりました。3 番目に、2017 年 12 月 12 日のフィリピン保健省地方局長会議にて、今回の研修概要について講師招聘があり、被災地における子どものメンタルヘルスについて保健省としてどう取り組むかの議論がなされました。4 番目に、フィリピン側と日本側からフィールドレポートを雑誌に投稿しました。

研修事業のインパクト

(本事業を通じて、現地で計画された、もしくは内容が変更された取り組みによって、得られた効果の件数と内容)

- ・ フィリピンにおいて、各機関のネットワーク構築によって得られる効果については、今後の状況を観ていく必要がある。
- ・ 本事業をきっかけに、みやぎ心のケアセンターと石巻市が、平成29年8月31日に「被災地における子どものメンタルヘルス支援活動と連携について」の研修会を開催し、これまでの取り組みの再評価を実施した。またこのテーマによる研修会を次年度以降も継続的に開催する予定である。

最後に研修事業のインパクトですが、フィリピンにおいて、各機関のネットワーク構築によって得られる効果については、今後の状況を観ていく必要があります。日本側のインパクトとしては、本事業をきっかけに、みやぎ心のケアセンターと石巻市が平成 29 年 8 月 31 日に「被災地における子どものメンタルヘルス支援活動と連携について」の研修会を開催し、これまでの取り組みの再評価を実施しました。また、このテーマによる研修会を次年度以降も継続的に開催する予定です。以上です。